

チベット天珠

チベット天珠(てんじゅ)とは、2000年以上前の紀元前にチベットで作成されたいた聖なるお守りです。

天の眼の数珠「天眼珠」を略して天珠と呼ばれています。知恵を開く過去や未来が透き通って見える「第三の眼」に例えられていました。これら、2000年以上前に作られていた天珠が「老天珠」です。

老天珠は、原石を砕いて磨き、草の汁で模様を描き、焼くことで模様を浸透・浸食させ、色を定着させて作られたと考えられています。

その紋様や種類にはそれぞれの意味があり、ひとつひとつに強固な魔除けの護符となる力が込められました。独特な紋様や言霊は、抽象的でありながら宇宙や私たちの心を表していると伝えられています。

高僧や特別に修行した者だけが身に着けることが許され、宗教上の儀式に使用されたようです。

今回使用する梁先生の老天珠は、長さが32cmもある巨大なものです。通常は2cm、大きくても4cmとされています。

